

千葉県大多喜町

シンポジウム
レポート地元の人と考える森林の活かし方
廃校を拠点に地域活性化を目指す

千葉県大多喜町で地域活性化に向けた取り組みを進める一般社団法人efco・j.p（エフコ）が、11月8日（日）、低炭素社会づくりシンポジウム「地域の人々と考える森林の活かし方」を、地域の人々と考える森だ。千葉県中部の豊富な森林・竹林を、地域の学だ。エフコは大多喜町の廃校になった小学

校（老川小学校）を拠点に、地域の自然エネルギーを活かした様々な活動を行っており、今回のシンポジウムもその一環だ。千葉県中部の豊富な森林・竹林を、地域の学だ。エフコは大多喜町の廃校になった小学

創出から地球温暖化の防止まで、様々な意義をもつことを語った。

出し、木質バイオマス燃料として使い切る」ための取組みと今後の展望についてスピーチした。

車座トークには、大多喜町町長の飯島勝美氏も参加。地元の人々に専門家を交え、およそ30人が発言する活発なものとなった。この中で、里山整備などを行うNPO法人

講演ではまず、林野庁林政部木材利用課企画調整課課長補佐の吉本昌朗氏が「木材利用の促進と林業の成長産業化」と題してレクチャー。吉本氏は、「川上から川下に至る総合的な施策を展開し、木材利用を軸としたまちづくりを推進」したいとの同庁の見解を示した。また、林産物についてのTTPP合意にも触れ、参加者の関心を集めていた。

林業家を代表して登壇したのは、Bioフォレストーションの近藤亮介代表取締役。近藤氏は、「未利用間伐材を全て搬

出、木質バイオマス燃料として使い切る」ための取組みと今後の展望についてスピーチした。

車座トークには、大多喜町町長の飯島勝美氏も参加。地元の人々に専門家を交え、およそ30人が発言する活発なものとなった。この中で、里山整備などを行うNPO法人

講演ではまず、林野庁林政部木材利用課企画調整課課長補佐の吉本昌朗氏が「木材利用の促進と林業の成長産業化」と題してレクチャー。吉本氏は、「川上から川下に至る総合的な施策を展開し、木材利用を軸としたまちづくりを推進」したいとの同庁の見解を示した。また、林産物についてのTTPP合意にも触れ、参加者の関心を集めていた。

林業家を代表して登壇したのは、Bioフォレストーションの近藤亮介代表取締役。近藤氏は、「未利用間伐材を全て搬

出、木質バイオマス燃料として使い切る」ための取組みと今後の展望についてスピーチした。

車座トークには、大多喜町町長の飯島勝美氏も参加。地元の人々に専門家を交え、およそ30人が発言する活発なものとなった。この中で、里山整備などを行うNPO法人



車座トークの様子。大多喜町の未来を語る町長の飯島氏



来賓挨拶をする林野庁前長官の沼田氏